



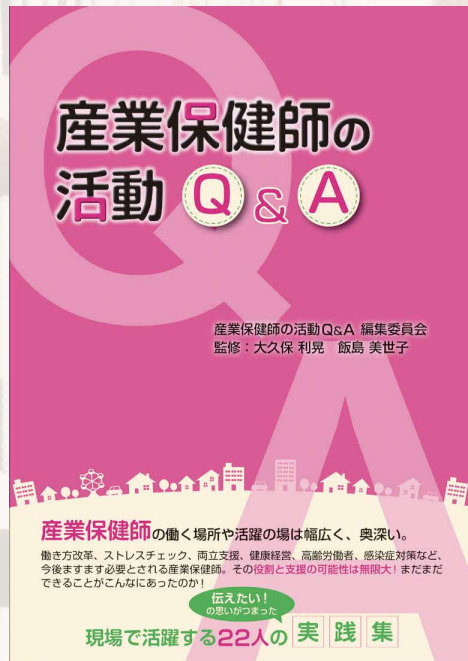
おすすすめの一冊

産業保健師の活動Q&A編集委員会 『産業保健師の活動Q&A』

2

016年、熊本を大きな地震が襲いました。死傷者3000人余り、住家の被害19万8000棟。表現しがたい被害状況でした。中で最も被害が大きかった益城町から緊急の要請があつて町役場職員の産業医を依頼されたのは震災直後のことでした。「住民もさることながら、このままでは職員の命が危ない」。私は二つ返事で受けました。役場の建屋自体が崩壊し、職員は不眠不休で働いています。この実情を目の当たりにして啞然とするばかりでした。DMAT（災害派遣医療チーム）の支援やアドバイスを受け、職員の健康管理上の山積する課題のために、直ちに産業保健師を採用するよう町長に掛け合い、実現しました。それで大いに助かりました。この経験から、私は産業保健師の活動に重大な意義を感じています。

しかし、産業保健師の活動の場は実に広いし、奥が深い。先の例は災害という特殊な場合ですが、平時でも、



産業保健師の活動Q&A
産業保健師の活動Q&A編集委員会 著
大久保利晃、飯島美世子 監修
バイオコミュニケーションズ

平成30年の統計ですが、地域保健で働く保健師が3万9000人いるのに、事業所で働く保健師の数は3300人と10分の1。地域保健は極めて重要ですが、産業保健の現場で働く保健師はまた別の専門職だと考えます。しかも働く世代では、中小零細企業も合わせれば日本人の大部分は働いているのです。この働く人たちの保健活動をもっと大切にしなければならぬと私は考えます。特に今は感染症対策、長時間労働やテレワークなどの働き方改革、表面に出にくいハラスメントやメンタルヘルスの問題があります。

本書は、産業の現場で実績のある保健師がこれらの問題に答えてくれています。さらに事例や詳細な解説も加え、理解を深められるように工夫されています。章を追ってみると、第1章は「産業保健師とは」。産業保健師の職域での役割や、組織・体制の中での活動のあり方などを紹介。予防医学協会のような労働衛生機関に所属する保健師の活動にも触れています。第2章は「産業保健師の基本業務のポイント」。第3章は「テーマ別産業保健師の業務」について。生活習慣病やストレスチェック、感染症対策等のリスク管理などを取り上げています。第4章は「産業保健師の業務連携・連絡先」。地域保健との連携は重要なテーマです。そして第5章で「産業保健師のこれから」について、日本産業衛生学会や日本産業保健師会の考えなどが述べられています。

小山 和作

こやま わさく

日本赤十字社熊本健康管理センター名誉所長。1960年熊本大学医学部卒業。同大学第2内科講師を経て、1978年日本赤十字社熊本健康管理センターを創設。所長として25年務め、2003年名誉所長に。2013年より（一財）熊本県健康管理協合理事長。数社の嘱託産業医も務めている。